



NCC 日本キリスト教協議会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-24 振替 00180-4-75788
TEL : 03-6302-1919 FAX : 03-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

NATIONAL CHRISTIAN COUNCIL IN JAPAN

JAPAN CHRISTIAN CENTER 24, 2-3-18 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0051 JAPAN
Phone : 81-3-6302-1919 Fax : 81-3-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

内閣総理大臣

岸田文雄様

イスラエル政府に即時停戦と外交協議を訴える国会決議を求める要望書

ガザのハマース武装集団の攻撃を契機にイスラエル軍の自衛を名目とする反撃により、今やガザにおいて一万六千人の市民の命が奪われ、その中で七千人を超える子どもが犠牲となっています。これはもう反撃でも自衛戦争でもなく、21世紀のジェノサイド（大虐殺）と呼ぶべきではありません。本来二百二十万のガザの人口の内、約百九十万、つまりおよそ8割の人々が住居を破壊され、安全な逃げ道さえ保障されない過酷な逃匿を余儀なくされている事態となっています。これが、ハマースによる攻撃後にイスラエルのギャラント防衛大臣が「“human animal”（人間の顔をした獣）との戦争」と呼び、ネタニヤフ首相がガザのハマースを撲滅するまで続けると公言した武力攻撃の結果なのです。去る11月24日から始まった一時休戦は7日間で終わり、以来ガザでは悲惨な犠牲が留まるところを知らず増大するばかりです。

1948年のイスラエル建国から今日までガザをはじめとするパレスチナの人々はあまりにも不条理な差別、抑圧、追放、そして殺戮という地獄のような現実の中に置かれて人間としての尊厳と自由を奪われてきました。その歴史的悲劇の始まりとは、1915年の「フセイン・マクマホン協定」や、翌年の「サイクス・ピコ協定」、また1917年の「バイルフォア宣言」という当時の西欧列強による、パレスチナをはじめとする中東地域に対する「三枚舌外交」とも呼ばれる全く欺瞞に満ちた植民地的な取り決めにさかのぼります。この欺瞞に満ちた「三枚舌外交」の策謀とは、シオニスト・ユダヤ人がパレスチナ地域での「民族的故郷（national home）」の確立を安易に約束し、無謀な方法でパレスチナ地方のアラブ人の生存権と人権を無視して、歴史的差別に苦しんできたヨーロッパ・ロシアのユダヤ人のパレスチナ入植を促す方針でした。この歴史に日本は無関係であったといえません。なぜなら、その方針に沿ってイギリスによるパレスチナの委任統治を、国際連盟において決議させるためにイギリス、フランス、イタリアの代表が集まったサン・レモ会議（1920年）に日本も第一次大戦の戦勝国として参加していたからです。岸田首相はこの歴史をしっかりと直視し、その責任について思い巡らしてください。

岸田首相におかれましては、ガザの人々の、言葉を失うほどの悲惨な現実を直視し、大国のエゴイズムと排外主義的なシオニズムによって生み出されてきたパレスチナの過酷な歴史を省察してください。それによって深い共感の心をもって国際社会において日本国憲法第九条をもつ日本が果たすべき外交的責任を自覚され積極的に取り組まれますことを心から願うばかりです。その意志を表明し具現するために、イスラエル政府に対して即時ガザ攻撃を中止し、外交協議による解決を訴える国会決議案を閣議で検討し、臨時国会に提出するように岸田首相が取り組まれますことを、心から要望するものであります。

2023年12月7日

日本キリスト教協議会

総幹事 金性済